

# 画像工学同窓会会報

GREETINGS

## 画像工学同窓会会長に就任して

日比野 繁雄

平成 13、14 年度の画像工学同窓会の会長を仰せつかりました。宜しく願い申し上げます。



私が入学したのは 1960 年、卒業年次は東京オリンピック開催の年で写真の世界もカラー化が勢いを増し始めた時代でした。在学時は工学部写真印刷工学科、写真映画専攻で印刷も少しかじりました。しかし研究に携わったのは在学中のみで、卒業後は営業関係一筋で今日に至っております。

この間、日本経済は大成長を遂げ、特に物作りでは世界の先端に立ちました。しかし各種規制に守られた環境、バランスを欠いた公共投資、古い体質の金融システム等をそのままにしての成長はやがてバブル経済を生み、破綻しいわゆる失われた 90 年代を経て 21C に入ってしまった。昨今ようやく政府も構造改革を政策の柱に据え、具体化を目指し始めました。改革は国立大学のあり方にも及び、かねてからの独立行政法人化等の課題も競争原理の導入や、個性的な教育体制作りを

求める動きが強まり、推進されるのではないのでしょうか。デジタルが当たり前になるなかで、情報画像工学科より改組後初の卒業生が生まれ様々な分野での活躍が期待されます。

社会や学校が変化するにつれ同窓会も変わっていくのではないのでしょうか。今春の同窓会主催の卒業記念パーティーに出席し多くの卒業生諸君とお会いしました。新感覚を持った、個性的な方々が新メンバーとして加わりました。構成員は毎年変化しています。しかし同窓会の行事への参加者はあまり変化しておりません。若い人が少ないのは、忙しい日常の活動のなかで同窓会から得る情報のニーズが少ないからでしょう。仕事で大活躍の方も定年後の方も健康で良い生活の為に情報こそ栄養になると思います。同じ母校という絆で結ばれ、多くの立派な先輩がおられ、利害関係の無い新鮮な情報が得られるはずです。諸先生方を中心とした幹事団と我々 OB メンバーでじっくり話し合い、会員のニーズに合った会にしてゆきたいと思ひます。皆様の積極的ご参加を期待いたします。

## 総会・懇親会のお知らせ

平成 13 年度の定期総会および懇親会を下記の通り開催いたします。皆様お誘い合わせの上、是非、ご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

- 開催日：2001年10月5日(金)
- 総会：18:00~18:30
- 議題：平成12年度事業報告・会計報告  
平成13年度事業計画・予算案  
その他
- 懇親会：18:30~20:00
- 場所：KKR HOTEL TOKYO  
(旧竹橋会館)  
東京都千代田区  
大手町1-4-1  
地下鉄東西線  
竹橋駅下車徒歩1分
- 会費：5,000円



出席される方は、同封の振り込み用紙の出欠欄にご記入の上、9月25日(火)までにお申し込み下さい。

## ■年会費納入のお願い

平成 8 年 9 月に工芸写真会と芝葉印刷学部会を含む会員数約 4600 名の画像工学同窓会が発足してから 5 年が経過いたしました。まだ、十分な活動が行われている状況ではないのですが、同窓会の会報発行などの活動運営は、主に会員の皆様からの年会費でまかなわれております。同窓会の活動を活発に行うために、皆様からの年会費の納入を是非お願いいたします。なお、会員の皆様には、年会費 1,000 円を同封の振込用紙により納入いただきますよう、お願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
千葉大学工学部情報画像工学科内  
電話：043-290-3450 FAX：043-290-3490

## ▶画像工学同窓会ホームページアドレス

<http://image.tp.chiba-u.ac.jp/alumni/>



# 千葉大学画像工学

## 情報画像工学科だより

### 1 情報と画像の融合

昨年度の会報で授業評価アンケートの実施を報告しましたが、その後、教育理念、教育活動、研究活動、管理運営、財政、組織、施設、環境、国際交流、社会との連携についての自己点検評価を行い、さらに6名の情報、画像に関係する有識者による外部評価を受けました。各委員からの厳しいご意見と同時に学科の発展を期待する多くの提案も頂きました。具体的な指摘の一つとして情報工学と画像工学をどのようにして融合して行くのか問題となりました。現在では情報技術を抜きにして画像技術を議論することはできなくなりました。画像はデジタル化された画像情報をもとに画像処理、伝送、表示、記録、記憶、保存が行われるようになりました。そして、画像はネットワークで配布され、その後必要に応じてハードコピーが作成されるようになりました。ネットワーク配信の威力は大きく、画像情報を多数の相手に同時に送ることが出来るようになりました。また、ネットワーク上では多くの人が同時に作業することが可能で、従来の作業のやり方を根本から変えることになりました。さらに概念が変わった例として、コピーがあります。いままで書類の複製は複写機

でおこなってきましたが、何回かコピーすると画質が悪くなり見られたものではありませんでした。しかし、デジタルデータのコピーは劣化がなく、確実に何回でもコピーが得られることから、コピーに対する考えも変わってきました。このようなことが出来るのも情報技術の進歩のおかげです。このように大きく変化している情報技術の基盤の上で画像を見直し、新しい画像技術の教育研究体系を構築することが情報工学と画像工学の融合の第1歩であると考えています。

### 研究プロジェクト

#### 2 『知的情報空間創造プロジェクト』

学科内に総合研究プロジェクト「知的情報空間創造プロジェクト」を企画しました。情報ネットワーク社会においてオフィスや家庭において作業しやすい生活空間とはどのようなものか、そのために必要な情報画像技術はなにかを追求するものです。そして、次世代情報記録・表示材料、3次元表示デバイス、画像の書換え可能な電子ペーパー、ナノ微細加工技術、人間の視覚情報処理・視覚インターフェースなどに関するサブプロジェクトが立案され、その一部は実行されています。人間相互の新しいヒューマンコミュニケーションの創生に情報技術と画像技術が必要な時代がきております。それぞれの専

門を活かした総合的な研究プロジェクトを有効に利用して産業界との連携を活発に行なっていくことにしています。

### 3 有機材料の未来と印刷技術

最近、有機材料の電子デバイスへ利用が進んでいます。特に薄膜ディスプレイでは有機エレクトロミミネッセンス (OLED) が実用レベルとなり、その画素制御のために有機トランジスタが使用されようとしています。薄膜基盤の上にインクジェットによりソース、ドレイン、ゲートの電極を設けて作ることが研究され、さらに、有機EL層を印刷技術により作成する技術が提案されている。あるいは、フィルム上に印刷技術により有機トランジスタを形成し、その上にマイクロカプセルインクを塗布した電子ペーパーの研究も活発に行われている。薄膜ディスプレイや電子ペーパーでは、書換え可能な表示媒体の研究と同時にこの有機トランジスタに関する研究が注目されている。もっとも注目すべきポイントは、従来のシリコンには超微細加工技術が必要であるが、有機材料の超微細加工には印刷技術が適していることである。大量に安くパターンニングすることが出来る印刷技術が大きく取り上げられ新たな展開が見られる時期がきている。

(情報画像工学科 学科長 北村孝司)

### ■ 2000年度卒業生・修了生就職先

2001年3月に社会へ巣立った新入会員の就職先をご紹介します。本年度も、依然厳しい就職状況の中、まだ多くの学生が内定を目指して奮闘しております。諸先輩方にも暖かいご支援をお願いいたします。なお、本年度の画像系の就職担当は、本田捷夫教授・星野勝義助教授です。また来年度は矢口博久教授・小林範久助教授が担当の予定です。

#### 工学部画像工学科卒業生

岩崎通信機、ウェザーニューズ、内田ユニコム、A&Iシステム、NEC、エヌジャーケー、NTTドコモエンジニアリング、キヤノン、キヤノン販売、共同印刷、キュービックス、金羊社、グローバリー、興和、佐川印刷、サトー、サービスウェア・コーポレーション、産経新聞社、シナノケンシ、シャープ、Johnson & Johnson、セイコーエプソン、ソフトウェア情報開発、TOKAI、東京個別指導学院、東京システム開発、東北リコー、東通、図書印刷、凸版印刷、トッパンフォームズ、トプコン、T & K TOKA、DNPメディアクリエイト、テクモ、データ通信システム、データリンク、大日本印刷、タカノ、田中産業、中央出版、中日高速オフセット印刷、日本アイ・ピー・エム、日本ファウンドリー、日本プレジジョンサーキット、広島

銀行、フォーラムエンジニアリング、フジカラーサービス、富士通LSIテクノロジー、富士通システムソリューションズ、富士通テクノシステム、富士通ネットワークエンジニアリング、フジテレビ、飛騨高山テレビエム、堀内カラー、ミリオン貿易、明治電機工業、メタテクノ、メディアパスターズ、ヤマハオートセンター、ユニシステム、リコー、レゴ、財務省印刷局、千葉大医学部第一外科、木更津市役所、地方公務員(富山)

[大学院修士課程進学先] 千葉大学、富山大学、東京工業大学、東京大学

#### 大学院自然科学研究科像科学専攻修了生

旭電化学工業、安藤電気、出光化学、キヤノン販売、厚生年金基金連合会、コニカ、サカタインクス、シナノケンシ、シャープ、セイコーエプソン、積水化学、DIS、テイシーシー、TBSサービス、東京コンピュータサービス、東芝、東芝テック、東陽テクニカ、凸版印刷、新潟日報社、ハイデックシステムズ、半導体エネルギー研究所、日立システムアンドサービス、日立製作所、日立ソフトウェアエンジニアリング、富士写真フイルム、富士通ソーシアルシステムエンジニアリング、富士通ソーシアルサイエンスラボラトリー、富士通電装、毎日新聞社、明生システムサービス、メイテック、横河電機、リコー

[大学院博士課程進学先] 千葉大学、東京工業大学、東北大学

### 小瀬輝次先生を悼む

北海道大学大学院工学研究科量子物理学専攻  
馬場直志

小瀬先生ご逝去の報に接したのは、凸版印刷の高橋進さんが小瀬研OB宛てに出された電子メールでした。先生から昨年末にお葉書、今正月には年賀状を戴いており、お元気にお過ごしとばかり思っておりましたので大変驚いてしまいました。このため、小瀬先生がお亡くなりになったとは信じられず、小林裕幸先生にお問い合わせしたりしてしまいました。

私が小瀬先生のお名前を知るようになったのは、北大の大学院学生としての研究テーマとの関わりで、先生が応用物理学会誌に書かれた超解像についての論文を通してでした。

博士課程修了後、就職先を探していましたら、千葉大画像工学科で助手の公募があり応募することにしました。幸いにも助手として採用していただけることになったのですが、採用決定後に初めて、第4講座の担当教授が小瀬先生であることがわかり大変感激したことを覚えております。

1981年5月に私が助手として着任したとき、小瀬先生は東大生産技術研究所の教授で、千葉大教授を兼任されておられました。先生は、週1日千葉大にいられて講義をし、そして研究室のゼミを指導して下さいました。先生は私に対する教育的配慮から、東大生研でのゼミに参加するようにして下さいましたので、私は幸いにも週2回先生とお会いする機会に恵まれました。小瀬先生に接しられた方はど

なたも先生の温かな人柄に魅了されたのではないのでしょうか。私が千葉大の助手をしていたのは2年程でしたが、小瀬先生からは研究面のみならず実に多くの恩恵を授かりました。先生は学生達とも気軽に接しられ、就職の面倒など、学生のためになることは労を厭わずされておられました。

小瀬先生は、光学的伝達関数、色彩論、ホログラフィーなどの研究、そして日本光学界に対する長年の御貢献により、1999年春に勲3等旭日中級賞を受賞されました。先生の叙勲祝賀会が私が小瀬先生とお会いした最後の機会となりました。先生のおおらかで優しさに満ち溢れたお人柄は終生変わらなかつたと思います。天国から私達を微笑みながら暖かく見守って下されているように思えてなりません。

## 阪口先生

王子製紙 三浦喬晴

画像の小林裕幸先生から「阪口先生の追悼文を書いて欲しい」と言う依頼を受けた。それから間もなく二ヵ月になろうとしている。メ切はとっくに過ぎてしまった。これじゃ昔とちっとも変わらないじゃないか。そこへ行くと阪口先生は学会要旨集のメ切だって遅れたことは無かったよなあ、なんてこと考えているうちにまたまた時間が過ぎていく。阪口先生って一体俺にとって何だったんだろう、なんてことも考えたってしょうがないか。だって、その答え聞きたくたって、もう応えてくれないもんな。

そういえば阪口先生って、みんなにダンディって言われてたよなあ。確かに背は高いし髪はふさふさだし、パイプをくゆらす姿もきまってるよなあ。でも、そういう外見の事ではなしに、なんだか颯爽としていたよなあ。

真似しようと思っても出来ない、内から滲み出す貫禄みたいなものだったのかなあ。だからって別に取っ付きづらいか言うことではなく、妙にユーモラスな所もあったな。心が休まるって言うのかな。そばにいとんだかい匂いがしたな。手もでかくて、そのでかい手で器用にガラスナイフ作ってたしなあ。

阪口先生って写真が本当に好きだったなあ。だってご子息の名前に「真」の字をつけてしまったくらいもん。絵を描くことも好きだったんだ。モジリアーニが好きで、模写したものなんか、ホンモノみたいだった（かな）。

それにしても阪口先生って、いわゆるキレルってこと、なかったよなあ。我々はもちろん、学生を頭ごなしに怒るって事がなかったじゃないかなあ。（内緒だけど、俺は一回だけ怒られた！）

いつも泰然自若としていて、大学紛争の時なんか闘争学生がどんなに失礼な言い方で自己批判を迫っても悠々として持論を曲げず、

しまいには学生の方が根負けしてしまったんだ。「おまえなんか嫌いだ、帰れっ！て言うから帰ってきた」なんて、ケロッと言っていたっけ。

いつも穏やかで、にこやかで、悠々としていたっけ。まわりにいる人が伸び伸びしてるんだよな（俺は伸び伸びし過ぎたけどさ）。なんだか手のひらの中で遊ばされていたって感じかな。それでも良かったんだ。

たった一度、とても落ち込んでいた先生を見た事がある。今から30年も前だろうか、工短の富山君という学生が自転車で通学の途中、馬鹿でかいトレーラーに巻き込まれ亡くなってしまったんだ。「何で彼の様な若い奴が死ぬんだ！」って。「虚しい」って。

何だかこの先書けなくなってしまった。こんな文章が追悼文だって言ったら、阪口先生に叱られる。（そしたら2度目だ！）先生ゴメンナサイ。

## 小倉磐夫先生を偲ぶ

千葉大学工学部情報画像工学科  
画像物理工学教育研究分野 立田光廣

本学工学部画像工学科教授であった小倉磐夫先生は、70歳の誕生日を目前に控えた昨年10月6日、食道がんのため亡くなりました。

先生は1954年東京大学理学部物理学科を卒業後、同大学院を経て、東京大学理学部物理教室助手に任ぜられました。その後、1961年日立製作所に入社し、中央研究所で研究されました。1967年には東京大学生産技術研究所に講師として迎えられ、翌年には助教授、1976年には教授となり、1991年東京大学を停年退官後は1996年まで千葉大学工学部画像工学科教授として教鞭をとられました。この間、応用光学からレーザーまで、幅広い分野で研究されると

も、多くの後輩の育成につとめられました。

30年ほど前、私は東京大学生産技術研究所第一部応用光学部門の修士課程学生となりました。当時助教だった小倉先生は、「神出鬼没」であり、いつ登校されるか、どこへ出かけられるのか、授業時間以外は誰にも全く予測がつかないことで有名でした。小倉先生が、あの赤いヘリウム・ネオンレーザーを日本で最初に発振させたとか、カラーテレビのブラウン管製造に使用する非球面レンズの特許により日立製作所に十億円もの収入をもたらしたといった話は、迂闊なことに、当時は知りませんでした。

研究室員の楽しい日課となっていた「お茶の会」にふらりと現れ、サラリと話される内容は意味深長なこともあれば、歯に衣を着せず、ずいぶん物事ははっきりいわれることもあり。実にい

ろいろな業界の裏話に通じておられ、茶飲み話の合間に、偉い方々の名前がポンポンと飛び出すのを目を丸くしながら聞き入ったことを鮮明に覚えています。あるとき、「小倉先生はどうしてそんなに色々なことをご存じなのですか。週刊誌に目を通すだけでも大変でしょう」と真顔で尋ねたところ、ちよつと間をおいて、「情報というものは、もっている人のところに集まるものだ」という返事がかえってきました。田舎者の私が、東京からようやく日本に目を向けるようになったのはこのころだったように思います。

今、私は千葉大学にいて、小倉先生が愛用された椅子にすわりながら、30年を振り返り、縁とはまことに不思議なものだとつくづく思います。

小倉先生がやすらかに眠られることを心からお祈り申し上げます。

## 私の就職活動

後科学専攻修士課程2年 進藤有希 1999年度卒

「私もそろそろ始めなければ…」そう思ったのは、2月に入って間もなくだった。周りはTV局の試験が既にラッシュで、早くも就職活動に出遅れた感たっぷりだ。

今のご時世、インターネットがなければ就職活動も円滑にできないもので、まずは就職活動支援サイトへの登録をする。「〇〇社を受けるには、××サイトの登録が必要」というのがあるので、登録の度にいくつもいくつも同じような登録事項に1つ1つ答えていかなければならない。この登録も「名前・学校名+α」位ならいざ知らず、様々な質問があり、結構大変である。この中でも辛い質問が、「資格・語学能力」。「資格なし・語学テスト無得点」これにチェックを入れるとき「ああ、私って無能」と、ひどく劣等感を感じる。これを登録の度に味わう。これだけで神経がやられていくのを感じた。そして登録

が終わると、今度は企業毎の質問ページがやってくる。セミナーに行くためには、「アピールを200文字で」とか「弊社に入ってやりたいことを400文字で」とかに答えねばならない。今の時代、数社受ければどこかに決まるという保証は全くない訳で、とにかく多くの会社にエントリーしたいのに、いろいろ考えることが多くて、時間がかかる。互いが見えないこの仮想空間からバトルは始まっているのだと思うと、どんどん辛い気持ちになった。

そして次はセミナーだが、今時は「セミナー+筆記試験」が普通で、「どんな会社を知るために行く」だけでは済まされない。そして、そこで出される問題の多数はSPIというやつで、短時間にある程度きちんと考えなければとけない様々な教科の混じった大量の問題を解かされる。これは、得意・不得意があるようで、残念ながら後者だった私は、「セミナーで終わり」という空しい経験もしてしまった。

また、面接にたどり着いても、「今年から始めて女性の研究員を採用します。」と言わ

れたり、「君が男性なら一も二もなく来て欲しいんだけどね。」と仰って頂いたり、こんな時代錯誤な話は昔の話だと思っていたのに、とても良い経験をさせて頂いた。この頃は、周りも就職が決まりだしたため、精神もお肌もボロボロになって、とても辛かった。ちなみに私が内定を頂いた会社は、奇しくもあれだけ苦労したインターネットでの登録もSPI試験もなかった会社だった。

私の就職活動を振り返って、ひたすら精神を病んだ日々であったことは確かだが、学んだことも多かったと思う。しかし、それが何だったかを皆様に解ってもらえるように書くのは非常に難しいので、あえて書かない。とにかく、社会の厳しさは理屈ではないことを肌に感じながら、これからの自分のことをかなり現実的に考えさせられた日々だった。

最後に、就職活動中の不安定だった私を支えてくれた人達に、この場を借りてお礼申し上げます。

**先輩たちあつての仕事？3**

中村 幹 1990年卒

(株)印刷学会出版部で『印刷雑誌』を編集している中村です。恒例(?)の私の仕事ぶりを紹介させていただきます。これまでは、登場人物はすべて同窓会の先輩でしたが、今回から同輩と後輩も登場します。

○月△日 今日印刷機材輸入協議会という団体のセミナーと総会の取材。講演者は竹原悟さん。竹原さんは、現在タイポロジという自分の会社を作ってコンサルタント活動を中心にご活躍されているが、日々、さまざまなアドバイスをいただき感謝している。毎月のCD勉強会(現在古矢泰一先生が会長

になっている千葉大印刷科OB中心の勉強会)でも、講演者やコーディネーターに困るときはいつも、各種アイデアをいただいたり、自ら進んで講演してもらったりして、大助かりである。

○月△日 新聞のカラー化に関するあるセミナーで、読売新聞の越後仁士さんと山岸雅広さんと会う。わたしは4年生の時の工場実習で読売新聞のお世話になり、その時に滝沢千太郎さんと深田一弘さんらにご迷惑をかけてしまった。みんな技術部の方なので、今でも新聞に関係する取材などでときどき再開することがある。工場実習の最終日に皆さんに酒の席を用意していただき、楽しい一時を過ごしたことはもちろん忘れていない。

○月△日 湯本好英先輩が社長をなさっている

グラバックジャパンが高解像度のDVD素材集を発表し、話しを聞きに行く。担当は宮脇修三くん、同社の新規ビジネスに関しがらんでいるようだ。これまで、呑み会やパーティの席で後輩との接触はもちろんあったが、実際の仕事のやりとりで後輩と接するのは初めてで嬉しい。

○月△日 私の自宅の最寄り駅は京成線の菅野というローカルなところなのですが、返りの電車で偶然に同期の中山徹生と会ってびっくり。卒業以来会ってないと思うから、十数年ぶり。ソニーで有機ELをやっているらしい。たまたま、印刷学会や画像学会の研究発表会の研究者などに同期の名前を見つけることがあり、みんながんばっているんだなあ、と思うことしばしばある。

(来年につづく)

**2000年度事業報告**

**1. 第5回定時総会および懇親会**

総会および懇親会を2000年9月1日(金)KKRホテル東京(東京竹橋)にて開催した。総会では、はじめに会長挨拶が行われ、続いて1999年度事業報告、会計報告、監査報告が行われ承認された。さらに、2000年度予算案および事業計画について説明があり承認された。引き続き、懇親会を開催した。参加者は40名であった。

**2. 第3回技術講演会**

2000年9月1日(金)KKRホテル東京(東京竹橋)にて午後2時30分から開催した。

テーマ: 「21世紀の画像技術を語る-第2弾-」

講演1: 「21世紀のハードコピー技術」東海大学工学部 高橋恭介教授

講演2: 「デジタル写真プリント2000」

東京工芸大学芸術学部 大野 信教授

講演3: 「インキジェット技術の最近動向」高島祐二氏(昭和43年卒業)

**3. 会誌発行**

会誌第3号を発行した。

**4. 新入会員歓迎会(新卒者を励ます会)**

新卒者を励ます会を2001年3月23日(金)千葉大学画像工学科の卒業式の後、千葉大学学生会館にて開催した。

**5. 関西支部**

総会7月15日(土)大阪、東洋ホテル

**6. 幹事会**

2000年6月9日(金)アルカディア市ヶ谷にて開催。

利息	5,529
小計	1,600,349
合計	10,652,048

**支出の部**

内訳	決算
委員会費	69,833
新卒者を励ます会	300,000
総会経費	527,407
通信費	579,693
会誌編集発行費	206,325
支部活動推進費	62,240
雑費	367
慶弔費	1,921
小計	1,747,786
次年度繰越金	8,904,262
合計	10,652,048

**次年度繰越金(平成10年度残高)内訳**

定期預金(千葉銀行)	7,000,000
普通預金(千葉銀行)	1,240,768
郵便振替	532,940
現金	130,554
合計	8,904,262

**2001年度(平成13年度) 事業計画案**

**1. 第5回 定時総会および懇親会の開催**

日時: 平成13年10月5日(金)午後6時より

場所: KKR HOTEL TOKYO(竹橋会館)

**2. 会報の発行**

第4号の発行

**3. 関西支部 平成13年度 総会・懇親会の開催**

日時: 平成13年7月14日(土)午後6時より

場所: 東洋ホテル

**4. 幹事会の開催**

日時: 平成13年7月16日(月)午後6時30分より

場所: アルカディア市ヶ谷

**画像工学同窓会平成12年度会計報告**

**収入の部**

内訳	決算
前年度繰越金	9,051,699
総会会費	150,000
年会費・寄付	1,340,820
工学部同窓会より活動費	104,000

**平成13年度、14年度 役員名簿** 任期=平成13年4月1日~平成15年3月31日

会 長	日比野繁雄(昭和39年、コニカ(株)前取締役、コニカ総合サービス(株)社長)	
	岩田克彦(昭和36年、大同印刷(株)会長)	
副 会 長	山岡亜夫(昭和37年、千葉大学教授)	
	*北村孝司(昭和45年、*情報画像工科学科科長)	
顧 問	井下 廣(昭和15年)	角田隆弘(昭和15年)
	大江 茂(昭和17年)	山本隆太郎(昭和18年)
	渡辺一平(昭和24年)	江越壽雄(昭和22年)
	久保走一(昭和26年)	国司龍郎(昭和25年)
	山司康男(昭和29年)	古賀健一郎(昭和29年)
	藤田 且(昭和30年)	松本和雄(昭和30年)
	三位信夫(昭和33年)	土屋元彦(昭和33年)
	古矢泰一(昭和33年)	山田 溪(昭和33年)
	吉村 実(昭和35年)	高橋恭介(昭和34年)
幹 事 長	大野隆司(昭和40年)	
副 幹 事 長	豊田芳州(昭和40年)	甘利武司(昭和41年) 小林裕幸(昭和47年)
幹 事	大沢慎一(昭和41年)、横沢佑治(昭和41年)、北村孝司(昭和45年)、	
庶 務	花畑雅之(昭和51年)、斎藤一(昭和58年)、岩崎賢太郎(昭和63年)	
会 計	田中恒雄(昭和36年)、矢口博久(昭和49年)	
会 計 監 査	野田栄三(昭和29年)、正田章(昭和39年)、海野元弘(平成6年)	
会 誌 編 集	小林裕幸(昭和47年)、湯本好英(昭和51年)、岩崎弥平次(昭和55年)、	
	中村幹(平成2年)、柴史之(平成5年)	
名 簿 管 理	相良頼巳(昭和39年)、小関健一(昭和48年)、青木直和(昭和50年)	
関 西 支 部	戸田文夫(昭和41年)、滝田進弘(昭和44年)	